

せき
関

かず のり
和典

西目屋村長



随想

第5話

プロフィール

村監査委員、村議会副議長。
現在2期目、43歳。



▲吉さんを親善大使に 郷土愛に共感

自信と誇りをもてる村へ

世界遺産と水源の里

我が愛する村は、世界自然遺産白神山地の村として、小さくともキラリと輝く地域づくりを目指しながら、中でも東北有数の大きさを誇る津軽ダム建設を抱え、全国でも唯一「世界遺産と水源の里」の

我が愛する村は、世界自然遺産白神山地の村として、

名にふさわしい自治体です。白神のブナ原生林を源として流れる岩木川は、豊かな津軽平野を潤し、眼上には雄々しい姿の岩木山を望む風光明媚な景観を多く持ち、貴重なつかずの自然の宝庫となっています。

今年、秋の津軽ダム定礎式と冬の東北新幹線全線開業を控え、多くの人々に注目され、さらには、訪れていただく魅力ある地域として歩めるよう努力を重ねてまいりたいと考えております。特に、郷土を愛し、日本を愛する吉幾三さんに西目屋のふるさと親善大使になっていただき共に「世界遺産と水源の里」に力を入れ、やを全国へ発信しながら、未来へ向け更なる飛躍を成し遂

げるため頑張りたいと思っております。

今まで、「貧しく寒くて政争の激しい村」のイメージを払拭するため、「世界の白神から日本一若い村長を出そう」という私のキャッチフレーズをアピールし、「子どもとお年寄りにやさしい村づくり」を基本に、新しい政策を打ち立て、その公約を実行することで、その公約を実行することで、村のイメージが変わるように努力してきた結果、村始まって以来の無投票再選を果たし、「村政の継続へ」と確かな歩みを進めさせていただいております。村民の姿勢にも凛とした心意気と静かな達成感が見受けられ、村民融和のもと一丸となって村が新しい時代へと動き出しており、その中で活気と躍動を覚える地域へと変化していると確信しているところでもあります。

今後とも、少子化対策に力を入れ、中学卒業までの医療費及び、保育料、妊産婦健診無料化など、行財政改革によって得たお金を「物から人へ」と村民に還元させることで政策推進に反映させ、さらには、村営住宅の整備によつ

て若者世帯の定住促進に全力で取り組んでまいりたいと考えております。これは、村民が住民投票によって自立する村を選んだことを最大限尊重すると共に、小さな村として人口が少ないことを逆に利点にし、政策の選択と集中に努力しながら二度も集落移転を余儀なくされた方々のためにも、津軽ダムの早期完成を目指す使命があると考えているからです。

確実に西目屋村が変わってきていると良い評価をいただけるよう今後とも自分達が住む地域に「自信と誇り」が持てるよう「好きです西目屋」をモットーに魅力ある村づくりを進めてまいります。

最後に、村長就任以来、村民に対し言い続けてきたことを紹介申し上げ終わりいたします。『だれかが村を一つにまとめる役をしなくてはならない。だれか人がやってくれるだろうといった気持ちでは事にはならない。確かに一人では何もできないが、一人が始めなければ何事も始まらないのだ。』